



学校だより

横浜市立秋葉中学校

電話811-6773 FAX813-9438

夢は手を伸ばした先にある

校長 柿崎 順子

12月、推薦入試を希望する3年生数名と面接を行いました。学校として推薦できる人物かどうかを確認するための面接でしたが、どの生徒も自分の希望をしっかりと語り、「なぜその高校に進みたいのか」を真剣な表情で話してくれました。

将来、学校の先生になりたい、外国に関わる仕事につきたい、といった将来の夢をもち、その実現に向けて高校でも頑張りたいと語ってくれた生徒もいました。スポーツで実績をあげている高校を志望する生徒の中には、「レギュラーを取りたい」「全国大会に出たい」といった目標だけでなく、「箱根駅伝に出たい」「プロサッカー選手になりたい」と、高校の先にある大きな夢まで力強く語る姿もありました。

「実績のある学校は練習も厳しいし、レギュラーを取るのも大変だけれど、その覚悟はありますか」そんな質問にも、彼らは迷いなく答えてくれました。夢に向かう覚悟が、確かにそこにありました。

以前勤務していた学校の卒業生に、現在私鉄の運転士として働いている生徒がいます。彼は在学中から「電車の運転士になりたい」という夢をずっと語っていました。

電車関係の専門的な学びができる高校は多くなく、勉強が得意ではなかった彼にとって合格は簡単ではありませんでした。それでも彼は夢をあきらめず、志望校の説明会にはすべて参加し、苦手な勉強にも真剣に取り組み、見事合格を勝ち取りました。

その後、私鉄に就職し、駅勤務などを経て、今年ついに念願の運転士に・・・

連絡をもらって彼の運転する電車に乗りに行くと、制服姿がとてもよく似合い、動作の一つひとつにプロとしての自信が感じられました。誇らしげな表情を見て、「夢は本気で目指すと、ちゃんと叶うものなんだ」と強く感じました。

箱根駅伝で優勝した、青山学院大学陸上部監督・原晋さんが語った「柿の木作戦」という話を知っていますか。

柿の実を取るとき、いきなり一番上の実を狙うのではなく、まずは少し手を伸ばせば届く実から取る。その実が美味しいとわかれば、次はもう少し上の実の手を伸ばす。こうして小さな成功体験を積み重ねていくうちに、気づけば「一番上の実を取るにはどうすればいいだろう」と自然に考えるようになる。これが「柿の木作戦」です。

無理だと決めつけず、まずは夢を抱くこと
その夢に近づくための“小さな目標”を立てること
立てた目標を、一つずつ確実に達成していくこと

その積み重ねの先にこそ、夢の実現があります。

冬休みが明け、新しい一年が始まります。

皆さんが自分の夢に向かって、今年も一歩ずつ前に進んでいけることを願っています。